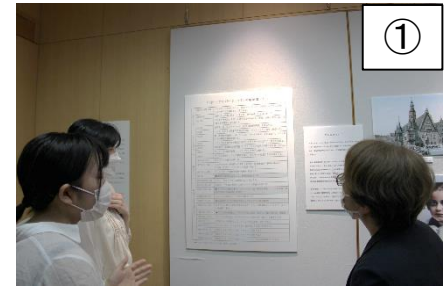


8月9日、長崎とアウシュヴィッツで 共に平和を祈るプロジェクト

💡 エディットシュタインにスポットをあてた展示会

7月27日～8月31日、純心大学博物館にて、「エディットシュタインとアウシュヴィッツ展」を開催。初日に行われた開会式には、原爆資料館長のほかドイツ連邦共和国の総領事やその他関係者が出席し、大学生がエディットシュタインの半生について説明しました。(写真①)



💡 ドイツと長崎から共に平和を祈る

8月9日、フライブルク大学(ドイツ)と長崎純心大学の学生が、オンラインで「祈りの集い」を開催。永井隆著「原子雲の下に生きて」にある子どもの被爆体験を日本語とドイツ語で朗読したほか、長崎とドイツそれぞれが作った「祈りのことば」を読み上げ、共に平和を祈りました。(写真②)



💡 出張展示会

9月1日～11月16日、原爆資料館にて、規模を縮小して展示会を開催。会場を変えたことで、大学に来ることができなかった人や修学旅行生、観光客など、より多くの人に展示を見てもらうことができました。(写真③)



💡 活動を振り返って

11月15日、これまでの活動を振り返って報告する場を設置。大学の友人などが訪れ、同世代の活躍を見守りました。(写真④)

💡 ドイツ語の被爆体験記朗読をYouTubeで公開

ぜひ、右(→)のQR(またはURL)からYouTubeをご覧ください。

被爆体験記のドイツ語朗読は
こちらから視聴可能です！



[https://www.youtube.com/
@gnadenberg4447](https://www.youtube.com/@gnadenberg4447)

